

恩給法案特別委員會議事速記録第一號

委員氏名

委員長	公爵近衛	文麿君
副委員長	大島	健一君
	伯爵副島	道正君
	子爵樋口	誠康君
	子爵青木	信光君
	男爵坂本	俊篤君
	神野	勝之助君
	男爵船越	光之丞君
	男爵郷	誠之助君
	澤柳	政太郎君
	阪本	彰之助君
	福永	吉之助君
	南	弘君
	江木	翼君
	伊丹	彌太郎君

大正十二年三月七日(水曜日)午後一時十九分開會
○委員長(公爵近衛文麿君) 開會イタシマス、政府委員ヨリ説明ヲ煩シマス

○政府委員(馬場鑒一君) 唯今御手許ニ配布申上デマシタ恩給法案要領ト題シマス印刷物ニ付テ御覽ヲ戴キマスレバ、今日ノ恩給法案ノ大體ノ内容ヲ御承知戴コト、存ジマスガ、便宜之ヲ則讀ヲ願フ代リト致シマシテ私ヨリ此恩給法案ノ内容ニ付テノ大體ノ點ヲ申上ゲタ方御了解ヲ得ルニ容易イカト思ヒマス、本會ニ於テ申上ゲマシタ恩給法案ノ改正ニ付キマシテハ、一ツハ法規整理、現在ノ恩給ノ諸規定ノ統一整理ト云フコトガ、一ツハ法規整理、現在ノ恩給ノ増額ト云フコト、此恩給増額ノ方ヨリ便宜申上ゲマス、御承知ノ如ク恩給ノ増加ニ付マシテハ政府モ多年希望ヲ致シテ居タデアリマス、民間ノ要求モ亦熱烈デアリマス、併ナガラ物價騰貴並ニ世間一般ノ經濟狀態ヨリ致シマシテ、財政上苦シ中ヲ差繰リマシテ免ニ角差錯キ難キモノト認メマス所ノ傷病者ノ恩給、即チ増加恩給並ニ遺族扶助料額ノ増額、尙ホ明治四十三年四月前ノ退官退職職文官、之ニ對シテ軍人トノ權衡上恩給ノ増加ヲ必要トスルモノガアルノデアリマスガ、其三ツニ向テ増加ヲ金テノデアリ

マス、然ル所ガ一般恩給ノ増加ニ付テハ政府案ト致シマシテハ大正十二年度ニハ此事ノ實行ヲ難シトシマシテ、規定ヲ改正イタサンデ出シマシタノデアリマスルガ、衆議院ニ於キマシテハ是非トモ文武官ノ一般恩給増加ヲ致シタイト云フ熱烈ナル希望ニ依リマシテ、大正十二年以後六箇年間ニ遞次増加スルコト云フコトノ下ニ一般恩給ノ増加ヲ同意シタ次第デアリマス、デ此一般恩給ノ増加ハ大體ニ於テ現在十五年ノ在職者ニ對シテ年俸ノ四分ノ一ノ恩給ヲ給シ、爾後一年ヲ加フル毎二年俸ノ二百四十分ノ一ヲ加ヘ來タノデアリマスルガ、ソレヲ在職十五年ニシテ年俸ノ三分ノ一、即チ百五十分ノ五十ヲ始メコトニ致シマス、爾後一年ヲ加フル毎二年俸ノ百五十分ノ一ヲ加ヘテ四十年ノ在職即チ百五十分ノ七十五止メコトニ云フコトニ致シマシタノデアリマス、是ト約合ヲ取リマシテ軍人ノ恩給モ矢張大體サウ申シタ比列增加ヲ致シタノデアリマス、軍人ノ恩給ハ御承知ノ如ク表ニ作テアリマス、各階級ノコトニ付テ必ズモ均一ノ割合ニ増加ハ致シテ居リマセヌガ、大體文官トノ間ノ不權衡ナキヤウナ増加ヲスルコトニナデ居リマス、デ此ノ衆議院ノ修正ニ對シテ政府ハ同意ヲシタ次第デアリマス、尙ホ此ノ増加恩給即チ傷病者ノ恩給ニ付マシテハ昨年モ一部増額ヲ致シタノデアリマスルガ極メテ不十分デアリマシテ、當時政府ハ尙ホ之ヲ改正増加スルコト云フコトヲ明言シテ居タ次第デアリマス、今回政府案トシテモ約昨年ノ額位ヲ増加シタノデアリマスルガ、衆議院ハ更ニ一層稍、理想ニ近イ所ノ額ニ傷病恩給ヲ増額イタシマシタノデアリマス、而シテ此ノ所謂増加恩給、傷病者ノ恩給ハ是ト其者ノ貴ヒマス、普通恩給ト併セマスト云フコト例ヘバ兵卒ニシマシテ、兩手ナキ者若クハ兩足ナキガ如キ所謂不具者、全ク稼クコトノ出來ナイト云フヤウナ者デアリマス、約年々増加恩給ガ九百圓、普通恩給ガ百五十圓、千五十圓位ノモノヲ貴ヒ得ルヤウナ程度マデ増額スルコトニナタノデアリマス、尙ホ此ノ所謂傷病者ノ恩給ノコトデアリマスルカラ從來ヨリモ此ノ官等階級ノ差ニ依テ餘リ増加恩給ノ額ヲ異スル理由ガナイモノト認メマシテ、階級ノ區別ノ減少ヲ圖リマシタコトガ、一ツデアリマス、又此戰鬪又ハ戰鬪ニ準ズル公務ニ依ル傷病ニ基イテ恩給ヲ貰フ者ト、普通ノ公務ニ依テ傷病ヲ受ケ、疾病ニ罹テ恩給ヲ貰フ者トノ間ノ差ヲ稍、接近セシメマシテ、其他此ノ傷病ノ程度ニ依ル所ノ金額ニ付テ適當ナル改正ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ遺族扶助料ニ付マシテハ

御承知ノ如ク現在デハ恩給ノ三分ノ一ヲ受ケル譯デアリマス、從テ其恩給者ノ在職中ノ俸給カラ云ヒマス、先ヅ恩給ガ四分ノ一、扶助料ガ其三分ノ一デアリマスルカラ年俸ノ十二分ノ一即チ一箇月分ノ俸給ガ大體ニ於テ遺族扶助料ノ最少額ニナデ居ルノデアリマス、今回ハ政府案トシマシテハ此ノ遺族扶助料ヲ恩給ノ二分ノ一ト致シタノデアリマス、而シテ衆議院ノ修正ニ依リマシテ、恩給ガ四分ノ一ヨリ三分ノ一ニ上リマシタカラ、遺族扶助料ニ付テ見マスト云フト丁度現在ノ倍額十割増、若クハソレ以上増シタト云フ計算ニナルノデアリマス、即チ遺族扶助料ニ於キマシテハ少クモ現在ノ額ノ倍ヲ貰フコトニナルノデアリマス、ソレカラ明治四十三年四月一日以前ノ退官者ニ付テ軍人ノ方ノ恩給ハ既ニ大正六年デアリマスルカ是ヲ更正イタシタノデアリマスガ、文官ニ付テハ今日マデ更正シタナカッタ、ソレハ四十三、四十二年ニ一般文武官ノ俸給ヲ平均二割五分増加シタノデアリマスガ、文官ニ付テハ其ノ二割五分増加セラレザル前ノ退官者ニ付テハ元ノ低イ俸給ニ依テ恩給ヲ貰ヒ來デ居リマス、勿論一昨年デアリマシタカ、一般的ニ七割増加シタ所ノ恩給ハ受ケテ居リマスルケレドモ、最近ニ實現シテ居ルガ如ク、俸給ハ總テ現在ノ俸給ニ基ク恩給ヲ受ケル、斯ウ云フ主義ニハ副ウテ居ラスノデアリマス、故ニ四十三、四十四、四十五年前ノモノニ付テ約二割五分増スルコト云フコトノ案ヲ政府ハ提出イタシマシテ、是ハ無論修正ナシニ通テ居ル譯デアリマス、極テ簡單ニ恩給ノ方面ノ増加ハサウ云フ問題デアリマス、法規ノ整理統一ニ付キマシテハ是ハ色々ゴザイマス、御承知ノ如ク恩給法規ハ非常ニ數ガ多クアルノデアリマス、單ニ法規ノ數ガ多クナッテ之ヲ了解スルニ苦シムノミナラズ、各法規ガ種々其執ル主義ヲ異ニシテ居リマシテ、甚ダ煩雜デアリマス、今回之ヲ適當ニ整理統一イタシマシテ、其大體ノ主義ヲ一致セシメマシタ、且現在ノ時代ニ適當ニ之ヲ改正シタノデアリマス、例ヘバ其四五ノ例ヲ申上ゲマスト云フト、從來恩給ノ請求權、此請求權ノ期間ト申シマス、請求ヲ爲シ得ル期間ガ法律ニ依テ違テ居リマシタ、之ヲ今回ハ一率ニ七年ト云フコト統一ヲ致シマシタノガ、一ツデアリマス、ソレカラ恩給ヲ併セ受ケル二種以上ノ恩給ヲ併給セラレルト云フヤウナコトガ生ズル場合ガアルノデアリマス、是ハ甚ダ面白クナイ制度デアリマスルガ故ニ、本改正案ニ於キマシテハ原則トシテ公務員ノ在職年數ヲ相互ニ通算スル主義ヲ執リマシタガ故ニ、例ヘバ巡查トシテノ退隱料ヲ受ケルト、同

時二一人ノ人ガ警部トシテ、或ハ他ノ文官恩給ト云フヤウナモノヲ受ケル、而モ同一國家ヨリ之ヲ受ケルト云フガ如キコトハ、絕對ニ無イヤウニ改正シタノデアリマス、尤モ特ニ已ムヲ得ザル例外ヲ一ニ認メタモノハゴザイマス、原則トシテハサウ云フコトニ改正シタノデアリマス、此例外トシテ認メザルヲ得ナイモノハ、是ハ學校職員ノ問題デアリマシテ、是ハ後ニ又機會ガゴザイマシタラバ御説明ヲ申上デマス、ソレカラ恩給ヲ裁定シマス機關、現行法ニ依リマスト云フト、文官、軍人、中等學校教員ノ恩給退職料ハ内閣總理大臣ガ之ヲ裁定スル、巡査看守ノ退職料等ハ恩給局長ガ裁定スルト云フヤウナ風ニ、誠ニ理由ノ無イ區別ガアッタノデアリマス、全國ハ之ヲ恩給局長ヲシテ統一のニ裁定サセルト云フニ致シマシタ、ソレカラ現行制度ニハゴザイマセヌノデ、今回新ニ設ケマシタモノニ、恩給審査會ト云フモノヲ置クコトニ致シタノデアリマス、是ハ恩給ノ裁定ニ付キマシテ特ニ内閣總理大臣又ハ恩給局長ガ裁定又ハ裁決ヲスル場合ニ此恩給審査會ニ諮問スルコトニ致スノデアリマシテ、之ニ依ッテ受恩給者ノ權利ヲ確保スルト云フ考デアリマス、ソレカラ待遇職員……待遇職員ト申シマス、現在ノ巡査小學校教員等ハ無論待遇職員デアリマス、是等ニ付テハ現在モシテ退料即チ恩給制度ガアルノデアリマス、此恩給制度ナキ待遇職員ト云フモノモ少クナイノデアリマス、例ハバ監獄ノ待遇職員、或ハ感化院矯正院ト云フヤウナ所ノ職員、是等ノ待遇職員ハ、等シク國家ノ仕事ヲシテ居ルノデアリマス、從來恩給ヲ給セラルル制度ガ無イノデアリマス、依テ是等ノ者ニ恩給ヲ給スル趣旨ヲモチマシテ、本法案ノ中ニ入レタ譯デアリマス、此結果多少國家ノ負擔ヲ増ス點モ無イデハアリマセヌケレドモ、其額ハ餘リ多キニ上ボラスト云フ見込デアリマス、ソレカラ先程チヨット申上デマシタ如クニ、恩給ニ付キマシテ在職年數ノ通算ト云フコトガ今日之ヲ廣ク認メニシテ、文官、軍人、教育職員、警察監獄職員ト云フヤウナモノニ付キマシテモ、亦或ハ他ノ待遇官吏ニ付キマシテモ、特ニ例外ヲ設ケザル場合ハ悉ク勤務年數ヲ通算シテ、其全體ノ勤務年數ニ付テ恩給ヲ給與スルト云フコトニ致シマシタノデアリマス、ソレカラ此從來ノ制度ニモアリマス、ソノデ、在職年限ヲ加算スル、例ハ從軍シタガ爲ニ年數ヲ加算スル、或ハ外國航海ニ從事シテ居ル爲ニ加算スル、是等ノ制度ガ從來ノ制度ハ甚ダ主義ガ區々デアリマス、甚ダ謂レノ無イ規定ナドモ隨分アリマス、ソレカラ、今回ハ是等ニ付キマシテ出來ルダケ公平ニ權衡ヲ得ルヤウナ主義ヲ執リマシテ、從軍武官加算以下總テ在職年數加算制ニ付テ統一整理ヲ致シタノデアリマス、ソレカラ現行ノ恩給ニ付キマシテハ六十歳未滿デ退職スル者ニシテ自己ノ便宜ニ依リ退

職者ニハ、一切恩給ヲ給與シナイ、ノミナラズ、其前ニ勤メタ年限ヲ總テ無効ナラシムルト云フ規定デアッタノデアリマス、今回ハ懲戒若クハ刑事裁判ノ結果退官退職スルニ非ザレバ、縱令自己ノ便宜ニ基ク者ト雖モ恩給ヲ給與スルト云フコトニシタノデアリマス、是ハ多少御疑モ生ジヤウト存ジマス、ケレドモ、現在ハ病氣ト稱シテ退官スルノデアリマス、併シ其實ハ唯醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ之ヲ恩給局長ハ是認シテ居ルト云フコトガ何年トナク慣例トナテ居ル次第デアリマス、故ニ數日前ニ神經衰弱ノ理由ヲ以テ退官退職シタ所ノ官吏モ、數日目ニハ特殊銀行ノ總裁或ハ理事ニ任命サレテ居ルト云フコトハ例ガアルノデアリマス、實ハ神經衰弱ナルモノ、ソノモノハ唯醫師ノ診斷書ニ記載シテアルニ過ギヌ、事實病氣ナリト稱スルモノデナイト云フ位デ、公然ノ秘密ト申シマス、甚ダ法規ノ上カラ申シマス、不都合デアリマス、スルノデ、事實ハサウナ、テ居ルノデアリマス、斯ノ如ク實際ニ於テ不都合ナル制度ヲ繼續スルト云フコトハ、恩給法ノ根本改正ヲ企ツル場合ニ於テ、甚ダ面白クナイモノト考ヘマシタ、之ヲ止メマシタ一ツノ理由デアリマス、又恩給ヲ給スルト云フ根本ノ理由ガ、必ズシモ病氣ナルガ故ニ退官退職シタルヲ以テ恩給ヲ給スルト云フモノト限ラヌト、我々見テ居ルノデアリマス、ソコデ今回ハ假令自己ノ便宜ニ因ルモノト雖モ懲戒ニ基ヅク關係デナク、又刑事裁判ニ基ヅクデナケレバ、此恩給ヲ給スルト云フコトヲ考ヘタノデアリマス、尙ホ現行ノ法律中ニ於テ實際ニ適用シマシテ不都合ヲ見マシテ、諸般ノ點ヲ改正シテ居リマス、ケレドモ、今一之ヲ申上デルノハ煩雜ト存ジマス、是ハ逐條ニ這入リマシタ場合ニ申上デマス、唯一ツ最後ニ屯田兵ノ恩給ニ付テ今回衆議院ノ修正ヲ政府ガ同意ヲ致シマシタノデアリマス、是ハ實ハ政府ニ於テモ頻ニ調査ヲ致シテ居リマシテ、今期議會ニ間ニ合フナラバ之ヲ附加ヘテ出シタイト云フ考デアリマシタノデアリマス、不幸ニシテ調査ガ恩給法案提出ノ時マデ出ニナリマシタノデアリマス、丁度衆議院デ修正ヲスル希望ガアリマシタ頃ニハ、相當ニ政府ノ調査モキマシタノデアリマス、ケレドモ、是モ衆議院ノ修正ニ同意ヲシマシテ、屯田兵中止期間ハ、從來ハ一部ノ恩給在職年限ニ通算サレテ居リマシタノデアリマス、今回ハ現役期間全部ヲ在職ト見テ恩給ヲ給スルコトニ改メタ、其衆議院ノ修正ニ同意シマシタ次第デアリマス、以上極メテ荒ツボク申上デマシタノデアリマス、其、其他ハ御質問ニ應ジテ御答イタシタイト思ヒマス

○阪本鈺之助君 或ハ各條ニ互ル所ガアリマスカモ知レマセヌ、大體御尋シテ宜シウゴザイマス

○委員長(公爵近衛文麿君) 宜シウゴザイマス

○阪本鈺之助君 恩給改正案ハマダ精讀イタシテ居リマセヌ、甚ダ迂濶ナ御尋ニ互ルカ知レマセヌ、衆議院ノ修正ニ依リマシテ文官ト武官ノ給與モ餘程近クナリ、元來本案ノ立案ノ趣旨ハ唯今御説明ニ依リマシテ其意味ガ凡ソ明カナリヤウデアリマス、尙ホチヨット拜見イタシマス、ケレト云フト、一ハ文官ハ十五年以上デナケレバ恩給ヲ受ケルコトガ出來ヌ、武官ハ十一年デ宜イト云フヤウナコトニナテ居ル、斯ウ云フヤウニ此武官ト文官ノ待遇ノ上ニ於テ、尙ホ武官ハ文官ニ優ル、サウ云フ點ハ、位アリマス、便宜上大體デ宜シウゴザイマス、御下シタルレバ誠ニ仕合ニ存ジマス、ソレカラモウ一ツハ十五年未滿ニシテ退官イタシマシタ者ニハ、從前通り月俸二分ノ一ト云フコトヲ年數ニ精算スルト云フコトデアリマス、衆議院ノ修正ハ月俸全額ニ對スル年數ヲ乘ジタモノニシタヤウデアリマス、大分裕力ニ爲ッテ譯デアリマス、尙ホ此改正案實施ノ後ニ於キマシテモ、從前ノ通り例ハ十四年デ退職イタシテ之ニ二十四箇月分ノ一時賜金ヲ受ケタ者ガ、更ニ他ニ就職イタシ十五年以上在職イタシテ矢張り恩給ヲ受ケルト云フコトハ、今後モ違ヒナイノデアリマス、現行法デ十四年十箇月マデ勤メテ、ソレデ一時賜金ヲ受ケテ置イテ、アトニモ幾箇月勤メテ、十五年以上ヤテ恩給ヲ受ケテ居ル者ガアリマシテ、結構ト申シマス、如何ニモ場合ニ依ッテハ旨過ギルト云フヤウナ說モアルノデアリマス、尙ホ此度ハ給額モ殖エタノデアリマス、尙ホ矢張り恩給ト一時恩給トハ別デアルト云フ解釋……此案デモ別デアルト云フコトデゴザイマス、如何デアルト云フコトヲ承リタイ、第三ニハ是ハ法案ニハ間接ノ關係デアリマス、行政整理トカ近頃申言葉、軍縮ト云フヤウナ言葉モアルガ、多數ノ人ガ退職イタス場合ニ恩給以外ニ相當ニ巨額ナル賜金ヲ受ケルコトガ出來ルヤウナコトガ近頃始マッタノデアリマス、平素ニ於テ五人十人辭職ニナツ場合ニハ大シタコトハナイガ、少シ數ガ多イト其時ニ非常ニ澤山ナ金ガ出ル、宮内省ナド其例ガ近ク開カレタヤウデス、近頃政府ニ於テ段々御實行ニナルヤウデス、是マデ平生長ク勤メテ居ルノニ、事情甚ダ氣ノ毒デアルガ老朽デアルトカ、無能デアルト云フノデ罷メ、平生罷メマス、唯、僅カ年末賞與ニ少シ色ヲ付ケルカ何トカ云フコトデ濟シテ居ル、澤山一緒ニヤラレトキニハ大變澤山賜金ガアルト云フコトハ、如何ナモノデアルト云フコトヲ常ニ疑、テ居ル、此恩給法ヲ實施サレタ曉ニ、右様ナコトハ一切爲サラヌ積リデアリマス、又現ニヤテ居ルノハ政府ハ穩當ナコトデアルト御考ニナテ居ルカ如何デアルトカ、伺ヒマス

○政府委員(馬場鐵一君) 御尋ノ中ノ第一ト第二ノ點ハ恩給局長ヨリ御答申上デマス、私ハ第三ノ御尋ノ點ニ

御答イタスノデアリマス、今回ノ行政整理或ハ軍備制限、是

ニ依テ退官退職イタシマシタ文武官ニ付テハ、所謂退職賜

金ヲ給スルト云フコトハ、斯ウ云フ理由ニ出ヅルデアリマ

ス、是ハ近ク追加豫算トシテ出マサルデアリマス、今回

此行政整理ニ於キマシテ、文官ガ多數一時ニ失職スル譯デ

アリマス、御承知ノ如ク平生ニ於キマシテモ、極僅ノ者ガ既

ニ老朽ニナリマシタ爲ニ退職スル者ハ相當アルデアリマス、

之ニ付キマシテハ各省區ニデアリマシテ、或省ノ如キハ可ナ

リ多額ノ退職手当ヲ出シテ居ルデアリマス、豫算ノ少イ役

所ニ於キマシテハ相當在勤年數ハ長クアツタノデアリマス

ガ、僅カ三ヶ月カ四ヶ月ノ賞與金ヲ與ヘテ退職セシメテ居

ルデアリマス、然ルニ此各官廳ノ豫算ノ高ニ依リマシテ、長

年勤メタ者デ相當ニ功勞アル者ヲ罷メサセルノニ、或ハ豫

算ガ少ナイガ爲ニ二月三月デ追拂フトカ、豫算ノ多イト

キニハ、十二月モアルト云フコトハ、甚ダ不權衡デアルト思

フノデアリマス、其者ノ勤續年數ノ長キハ相當ニ功勞アル

モノデアリマシテ、不斷ニ罷メルニ付キマシテハ相當ノ賞

與ヲ與ヘルト云フコトハ適當ナモノデアルト思ヒマス、殊

ニ今回ノ如キ多數ノ者ガ唯一時ニ失職イタシテ、而モ財界

不景氣ノ際デ、平生デアリマス、多少地方官ノ方面

ニデモ就職シ得ルデアリマス、前ニモ陳ブルガ如ク、殆ド

同時ニ多數ノ者ヲ罷メルノデアリマス、之ニ付テハ相

相當ノ退職賜金ヲ給與サレルト云フコトハ、今後モヤテ宜

カラウト思ヒマス、大體第三ノ點ニ付テ御答ヲ致シマス

○政府委員(入江貫一君) 唯今御質問ノ第一點、第二

點ニ付テ申上デマス、文武官ノ恩給ノ制度ニ付キマシテ差

別ヲ致シテ居ル關係、及ビ其差別ヲシタ爲ニ生ズル結果ノ

大體ヲ申上デタイト思ヒマス、唯今御話ノ如ク文官ハ十五

年ニシテ初メテ恩給ヲ得ラレ、サウシテ其恩給ノ一定ノ増加

ノ割合ヲ致シマシテ四十年デ止マル、四十年以上ハ増加ヲ致

サナイト云フ制度ニナツテ居リマス、サウシテソレガ五十

年マデ年々増加ヲ致シマシテ、五十年ニシテ止マル、斯ウ云

フコトガ一ツノ相違デアリマス、ソレカラモウ一ツノ相違ハ、

文官ノ方デハ一律ニ俸給ノ三分ノ一カラ始マリマシテ、

二分ノ一ニ終テ居リマス、軍人ノ方ハ此表デ現ハシテゴ

ザイマス、其金額ト俸給ノ割合ニ付テ見マス、大佐以上

ハ俸給額ガ略、文官ノ俸給ニ相當シテ居リマシテ、十一年

ニ於テ受ケル所ノ最小ノ恩給額ガ、文官ト同ジク其俸給ノ

三分ノ一カラ始ツテ居リマス、隨テ五十年ニナリマス、文

官デハ最高限ガ俸給ノ五割デアルニ拘ラズ、軍人ハ五割九

分二厘ニナツテ居リマス、中佐以下ニ於キマシテハ其俸給額

ヨリハ遙ニ高イ所ノ額ヲ假定ノ俸給ト致シマス、何故ナラバ

之ヲ文官ニ比較イタシマス、同ジ官等ノ者ニ於キマシテ

ハ軍人ノ方ガ俸給ガ低イガ爲ニ、其俸給ニ付キマシテ、同

所ノモノデアリマシテ、即チ從軍デアリマス、外國ノ駐在

デアリマス、海運ノ事業ニ勤務シマス、航海デアリマ

ス、トカ、ソレヲ軍人ノ特殊ニ行ヒマシタ、任務ニ對シマシテハ、

種々加算ノ方法ヲ設ケテ、其在職年限加算ノ方法ヲ設ケ

テ、在職ノ年限ガ増加スルニ付キマシテ、其恩給ノ高ガ高メ

マレト云フ結果ニナルデアリマス、ソレヲ以テマシテ相當

ノ實在職年月ニ比シマス、軍人ノ方ガ多クノ在職給ニ對

スル額ヲ受ケルコトニナルデアリマス、依テ先程申シマシ

タ此表ニ付テ申シマシテモ、實在職年限ガ、軍人ト、文官ト、

共ニ三十五年デアリマシテモ、軍人ハ事實ニ於テ四十年ナリ、

四十五年ナリノ恩給ヲ受ケル結果ニナリマス、隨テ其

受ケル所ノ恩給額ガ増スト云フ譯合ヒニナルデアリマス、

以上ノ點ガ本案ニ於キマス所ノ軍人ト文官トノ相違ノ主

ナル點デゴザイマス、次ニ第二點ニ於キマシテ、十五年未滿

ニシテ退職スルモノニ給スル一時恩給ハ月給ノ一箇月分ヲ

其在職年數ニ乘ジタ金額ヲ給スルコトニナリマス、是ハ御

承知ノ通り十五年未滿ノ退職者ニ對シテ再ビ公務ニ就キ

一箇年以上在職シタモノニ對シテ、恩給ヲ給スルト云フコト

ニナツテ居リマス、此點ハ樣々ニナツテ居リ、此金額ニハ相違

ガアリマス、原則ニ於テハ同ジコトニナツテ居リマス、此點ガ

マア不當デハナイカト云フ議論ハ、本案ノ立案スル時ニ於キ

マシテモ、出タノデアリマス、併ナガラ恩給額ガ既ニ増加サ

三

○阪本鈺之助君 大體分リマシタガ、モウ少シ伺テ見タ
イノゴザイマス。文官ト武官トノ相違ノ點ハ只今ノ御答デ
略、諒解イタシマシタガ、何故ニ文官ト武官トハ左様ナ差違
ヲ御付ケニナラナレバナラヌカ、此原則ガ始終其文官ノ方
ニ不平ガアルノデアリマス、ナル程、勤務ノ狀態ガ違フ、片方
ハ命懸デ勤ク役目デアリ、片方ハ机上ノ仕事ヲスルコト云フ
ダケガ違フ理由デアリマス、軍人ト雖モ始終彈丸雨ノ間
ニ出入スルモノバカリデハナイ、机上ノ仕事ヲシテ、殆ト生涯ヲ
送テ仕舞フ人モアル、疾病傷痍其他何カ戰爭等ガ原因
スルコトニ付キマシテ只今ノ増加率モアリマス、種々ノ優
遇モアルノデアリマス、無事ニ勤上デタ以上ハ文官デアラ
ウガ武官デアラウガ、十五年ナラ十五年、十一年ナラ十一
年デ宜シ、又普通ニ恩給ノ率ト云フモノハ、同様デ宜イト
云フノガ理窟デナイカト思ヒマス、是モ私ハ純理ヲ申スノ
デアリマシテ、其邊ニ付テ聽ク者ヲシテ何カ感服セシムル理
由ガアリマスレバ、ソレヲ一ツ承デ置キタイト思フ、ソレカラ
只今ノ此十四年假二十四年在職イタシタモノガ一時恩給
ヲ受ケテ、而シテ更ニ一年勤メレバ本當ノ恩給ガ受ケラレ
ル、一年ト云フ御言葉ガアリマシタガ、六箇月デハイケナイ、
例ヘバ十四年五箇月勤メタモノガ、更ニ就職シタ場合ニ更
ニ一年ハヤラナレバナラヌト云フ意味デアリマス、是ハ細
カイトゴザイマス、ドチラデモ宜イト云フノデアリマス
ガ、免ニ角現行法ト同ジデアル、十四年勤メテ十五年ニ滿タ
ナイデ一時恩給ヲ受ケラレタ、更ニソレガ又就職シタ此期間
勤メテ十五年ニナレバ、恩給ヲ受ケラレト云フコトニ違ヒ
ナイト云フ御趣旨ノヤウニ諒解イタシマシタガ、併ナガラ只
今法制局長官カラ承リマシテ、多クノ人ガ一時ニ職ヲ斷タ
レル場合ハ、將來モ今度ノ様ナコトヲヤルノガ相當デアラウ
ト云フヤウナ御考ノヤウデアリマス、若シ十四年ノ外勤メ
タ人ガ幸ヒヨサレマス、此恩給法ガ行ハレタ曉デアルト、十
四箇月分ノ一時恩給ヲ受ケ、是ガ月俸百圓ノ人デアレバ千
四百圓受ケ、サウシテ更ニ一時ノ何カ資金ヲ幾ラ貰ヒマス
カ、三千圓貰フカ六千圓貰フカ、ソレヲ貰フ、ソレデ公債ヲ
買テ居イテモ、五千圓貰フタト思フナラバ二百五十兩アルノ
デアリマス、一時恩給千四百圓ヲ受ケテ、サウシテ又一時資
金ノ若干金ヲ受ケテ、サウシテ其ノ人ガ又眞ニ老朽事ニ堪エ
ザルコトデナクシテ、他日又官廳ニ勤メ、一年カ一年半勤
メテ恩給ガ受ケラレト云フコトニナリマス、其人一人ニ
取テハ非常ニ都合ガ好イ、是ト反對ノ立場ニアタ人ハ非
常ニ損ヲスル、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、モウ少シ之
ヲ細カク論ズルト十五年少シモ間斷ナク勤續シタ人ト、切レ
切レニ或ハ茲ニ三年茲ニ五年ト中斷ヲシテ勤メタ人トハ、
幾ラカ恩給ノ上ニ差違ガアデモ宜イト思フノデアリマス、是

ハ一向今日、將來ノ改正法デモ見テ居ラス、間斷ガアデモ
多少中斷シテモ十四年經テバ恩給ガ受ケラレト云フコト
ニ付テ、今ノヤウナ場合ニ遭遇スル人ト、シナイ人トノ間ニ非
常ニ不幸ガ生ズルト云フコトデゴザイマス、其邊ハ御考
慮ニナラテ居ルコトト思ヒマス、併シ細カイトハ言テ居ラ
レスカラト云フ御趣意デアリマス、何カソレニ付テモ一度
御説明ガアレバ承テ置キタイト思ヒマス

○政府委員馬場鐵一君 聽ク者ヲシテ満足セシムル説
明ガアルカト云フ御注文デアリマシテ、甚ダ答辯ニ苦シム
デアリマス、一應申上デテ御満足ガナレバ致方ナイト思
ヒマス、此恩給ハ給與ノ趣旨ガドウ云フ趣旨デアルカト云フ
コトニ依テ、大體十一年トカ十年、或十五年トカ云フ問題
ガ起テ來タノデヤナイカト寄ニ思フノデアリマス、即チ私共
ノ見テ居リマス所デハ、恩給ヲ給スルコト云フ意味ハ、多年
官務ニ從事シテ或ハ十年十五年ヲ官務ニ専心從事シテ居
ル、此場合ニ於テ俸給トシテ給與スルモノハ日常ノ生活費
ヲ支辨シテ尙ホ餘リアル、即チ將來ノ生計ヲ維持スル基金
ガ造レルダケ、餘裕アル俸給ヲ與ヘテ置クトスレバ、私共ノ
大體ニ於テ恩給制度ハ要ラヌト思フ、併ナガラ俸給制度ナ
ルモノガ今日個々ニ付テ見マスレバ貧富ソレソレ違フ境遇ニ
對シテ、俸給ヲ給スル趣旨ガ其人ノ官吏トシテ、即チ文武官
教職員トシテ生活スルニ付テ、先ツ最少限度ノモノヲ給與シ
テ居ルヤウニ思フ、此中ヨリシテ將來ニ計ヲナスト云フ餘裕
ガナイ、斯ウ云フ者ガ十年十五年官務ニ從事シテ、ソレガ退
職シタ場合ニ於テハ將來ニデス、十年十五年官務ニ從事シ
テ勞務ニ依テ經濟能力ガ消耗サレテ居ル、即チ將來ニ於テ
ハ是ダケノ金ヲ得ル收益ニ付テハ所得能力ヲ缺イテ居ルモ
ノデゴザイマス、幾ラカ之ニ對シテ填補ヲヤル、之ニ對シ
テ補償ヲヤル、斯ウ云フコトニ私ハ恩給ヲ解シテ居ルノデア
リマス、ソウナリマス、詰リ恩給ヲ最初ニ給與スル年限、十
一年トカ十年十五年ト云フ、是ハ正確ニ其處ニ一年ノ差ガ
アルカ、正確ニ四年ノ差ガアルカ云フコトハ難カシイ問題
デアリマス、趣旨デモ、大體ニ於テ短イ年限ニ於テ、年限の
恩給ヲヤル趣旨ハ、其恩給ニ於テ、假リニ人間ノ或ルモノハ
能フベキ經濟の能力ヲ消耗スル、即チ軍人トカ、巡查看
守ト云フモノハ普通ノ文官ニ比ベマスレバ、大體ニ於テ、其
勤務勤勞ニ付テ見マスレバ違ヒハアリマス、全般
的ニ見タル所ニ依リマスレバ、先ヅ軍人、巡查看守ノヤウナ
モノハ普通ノ文官ヨリモ短イ年限ノ間ニ於テ經濟能力ヲ消
耗スル、是ニ對シテ軍人、巡查看守等ニ對シテ十年ハ普
通ノ文官ニ對スル十五年、是ト對抗スルモノデアアル、茲ニ二
限ノ差ガ出來テ居ルモノト私ハ解釋シテ居ルノデアリマス、
ソレカラ第二ニ恩給ノ年限、恩給ヲ受ケルニ至ラズシテ退職

シタル者ハ、第五十四條ヲ御覽下サレマス、在職一年以
上致シマセヌケレバ加算致シマセヌカ、十五年ト云フヤウ
ニ通算スルヤウニハナリマセヌカ、一ヶ月ヤ二ヶ月デハ恩給
ニ達スルコトハマアナイヤウニナラデ居リマス、行政整理ノ
ル場合ハデス、無論今回ノ行政整理ニ付キマシテ、多數ノ失職
者ガ生ズルガ故ニ、退職手當ヲ給スルコト云フコトヲ申上デタ
ノデゴザイマス、尙ホ將來ニ於テ又同ジヨウナコトヲヤル
カト云フ御尋デアリマシタ、將來ノコトヲ必ズシモヤルト云
フコトヲ申上デタルコトハ、困難デアリマス、理窟ハ行政整
理ヲ大仕掛ニヤルト云フヤウナ場合、軍備制限ト云フヤウ
ナコトガ大仕掛ニ行ハレト云フヤウナ場合ニハ非常ナル
多數ノ者ガ失職スル、サウ云フヤウナ場合ガアッタラバ相
當ノ退職手當ヲ出スノヲ以テ至當デアラウト云フコトニ考
ヘテ居リマス

○阪本鈺之助君 文官武官ノ待遇相違ノコトハ隨分苦
シイ御説明ノヤウニ拜承致シマシタガ、尙ホマダ伺フ機會モ
アリマセウシ、尙ホ政府委員ナリ、大臣ナリニ於テ、御説明下
サルコトガアデ、拜聽致シマス、コトガ出來レバ尙更結構デ
アリマス、先ヅソコハ強ヒテ御尋スルコトハ差控ヘマセウ、
只今ノ一時賜金デアリマス、是ガ將來御ヤリニナラヌト
云フコトノ確カノ豫言ヲ望ム譯デハゴザイマセヌガ、先刻ノ
御言葉デハ將來モヤラウト云フコトノ御答デアリマシテ、多
分御ヤリニナララウト思ヒマス、先キニ力ヲ入レテ御尋シタ
十四年位勤メテ、一時賜金ヲ十四ヶ月分ヲ貰フ、又行政
整理ト云フコトデ若干ノ可也優渥ナ一時賜金ヲ貰フ、ソ
デ免モ角モソレデ先ヅ幾ラカ腹ガ膨レテ居ル、其ノ人ガ一
年經テ又他ニ就職スルコト、今度恩給ヲ受ケル、十五年以上
ト云フ廉デ年限恩給ヲ受ケル、其人ハ無論此行政整理ガ
非常ニ仕合セデアッタ、昨年アタリチヨットシタ都合デ罷メ
ラレタ、又來年アタリチモ何處ニモ、始終更迭ガアルノデアリマ
ス、行政整理デナイ時ニ罷メラレタ人ハ、若シ十五年以上
デアッタ時ニハ、一時恩給モ貰ヘナレバ、一時賜金モ貰ヘナ
イデ唯恩給デアツ放スト云フコトニナル、此間ノ不幸ナ
ト云フモノハ非常ナモノニナルノデアリマス、是ハ人ノ運命デ
アツテ、ドモモ法律デサウ云フコト迄モ支配スルコトハ出來ヌ
コトデアリマス、是ハ已ムヲ得マセヌガ、隨分是ハ不幸ガ
出來ルト思ヒマス、其邊ハ立案ノ際ニ御考慮ガナクッ
ノデアリマス、ソレヲ伺ヒタイ

○政府委員(馬場鐵一君) チヨット先程申上デマシタ中
ニ誤リガアリマシタノデ甚ダ恐縮デアリマス、訂正ヲ致
シマス、第五十四條ヲ引用致シマシタガ現在恩給ヲ受ケテ居
ル者ガ再び就職シマシタ場合ハ、此今回ノ行政整理ニ依テ
退職シマシタ者ハ、成程一昨年ナリ、昨年ナリ行政整理ノ

シタル者ハ、第五十四條ヲ御覽下サレマス、在職一年以
上致シマセヌケレバ加算致シマセヌカ、十五年ト云フヤウ
ニ通算スルヤウニハナリマセヌカ、一ヶ月ヤ二ヶ月デハ恩給
ニ達スルコトハマアナイヤウニナラデ居リマス、行政整理ノ
ル場合ハデス、無論今回ノ行政整理ニ付キマシテ、多數ノ失職
者ガ生ズルガ故ニ、退職手當ヲ給スルコト云フコトヲ申上デタ
ノデゴザイマス、尙ホ將來ニ於テ又同ジヨウナコトヲヤル
カト云フ御尋デアリマシタ、將來ノコトヲ必ズシモヤルト云
フコトヲ申上デタルコトハ、困難デアリマス、理窟ハ行政整
理ヲ大仕掛ニヤルト云フヤウナ場合、軍備制限ト云フヤウ
ナコトガ大仕掛ニ行ハレト云フヤウナ場合ニハ非常ナル
多數ノ者ガ失職スル、サウ云フヤウナ場合ガアッタラバ相
當ノ退職手當ヲ出スノヲ以テ至當デアラウト云フコトニ考
ヘテ居リマス

○阪本鈺之助君 文官武官ノ待遇相違ノコトハ隨分苦
シイ御説明ノヤウニ拜承致シマシタガ、尙ホマダ伺フ機會モ
アリマセウシ、尙ホ政府委員ナリ、大臣ナリニ於テ、御説明下
サルコトガアデ、拜聽致シマス、コトガ出來レバ尙更結構デ
アリマス、先ヅソコハ強ヒテ御尋スルコトハ差控ヘマセウ、
只今ノ一時賜金デアリマス、是ガ將來御ヤリニナラヌト
云フコトノ確カノ豫言ヲ望ム譯デハゴザイマセヌガ、先刻ノ
御言葉デハ將來モヤラウト云フコトノ御答デアリマシテ、多
分御ヤリニナララウト思ヒマス、先キニ力ヲ入レテ御尋シタ
十四年位勤メテ、一時賜金ヲ十四ヶ月分ヲ貰フ、又行政
整理ト云フコトデ若干ノ可也優渥ナ一時賜金ヲ貰フ、ソ
デ免モ角モソレデ先ヅ幾ラカ腹ガ膨レテ居ル、其ノ人ガ一
年經テ又他ニ就職スルコト、今度恩給ヲ受ケル、十五年以上
ト云フ廉デ年限恩給ヲ受ケル、其人ハ無論此行政整理ガ
非常ニ仕合セデアッタ、昨年アタリチヨットシタ都合デ罷メ
ラレタ、又來年アタリチモ何處ニモ、始終更迭ガアルノデアリマ
ス、行政整理デナイ時ニ罷メラレタ人ハ、若シ十五年以上
デアッタ時ニハ、一時恩給モ貰ヘナレバ、一時賜金モ貰ヘナ
イデ唯恩給デアツ放スト云フコトニナル、此間ノ不幸ナ
ト云フモノハ非常ナモノニナルノデアリマス、是ハ人ノ運命デ
アツテ、ドモモ法律デサウ云フコト迄モ支配スルコトハ出來ヌ
コトデアリマス、是ハ已ムヲ得マセヌガ、隨分是ハ不幸ガ
出來ルト思ヒマス、其邊ハ立案ノ際ニ御考慮ガナクッ
ノデアリマス、ソレヲ伺ヒタイ

着手前ニ罷メマシタ者ト比ベマスルト、多少貰フモノノ多イ
ヤウニ思フノデアリマスガ、併シサウ驚ク程大キナモノデハゴ
ザイマセヌ、先刻阪本サンノ御話ヨリモズツ少イモノデアリ
マス、例ヘバ十四年ト假定致シマスルト、本法ニ依リマス
十四ヶ月ノ退職賜金ガ貰ヘマス、其外ニ所謂行政整理ニ
依テ貰フモノノ勤続手当ニ屬スルモノガ、七ヶ月分、即チ一
ヶ月ニ付キ半ヶ月分、失業手当ニ屬シマスモノガ、七ヶ月
分デアリマスカラ、十四ヶ月分デアリマス、マア百圓取テ居
ル者ガ一千四百圓、退官賜金ガ一千四百圓サウ云フコトニ
ナリマスル、成ル程其者ガ若モ昨年ノ初メカ、或ハ此處二年
三年後ニ罷メタナラバ、ソレ程ノモノハ貰ヘナイデアリマセウ
ケレドモ、普通ナラバ役所ニ依テハ十四年位ハ三ヶ月分デ
月、多クテ半年、鐵道省アタリニシマシテモ七八ヶ月分デ
ゴザイマス、ドウモ是ハ多少ノ損得ノ生ジマスルコトハ致
方ナイコト、思ヒマス、何トナレバ此處數年後ニ、若クハ此
處數年前ニ罷メタ者トスレバ、餘程此ボツノ罷メル場合デ
アリマスナラバ、相當ノ就職ヲスベキモノモアルノデアリマス、
勿論前例ニ依リマスルケレドモ、然ルニ今回ノ如キ不景
氣ナル時ニ、而モ多數ノ今ガ罷メラレマシタ場合ニハ殆ド就
職ノ途ハナイノデアリカト思ヒマス、サウスレバ是ニ對シテ
ハ普通ノ場合ニ罷メルヨリモ相當多クヤルト云フコトハ是ハ
已ムヲ得ナイコトデアラウト思フ、然ラザレバ中々殊ニ軍備
制限ナドニ付テハデス、實行ハ餘程困難ナルコトデヤナイカ、
外國邊リデモ相當ニ軍備制限ニ依リマシテ罷メル者ニハ金
ヲ出シテ居ルヤウニ聞キ及ンデ居リマスルガ、我日本ニ於キ
マシテモ同様ノ事情ニアラデラウト思フ、ソレカラ先刻御
尋ノ中ニキレトノ二十五ニナルノ勤続十五年ノ者トノ間
ニハ區別ヲ付ケテ宜カラウト云フ御説ハ誠ニ御尤デアルト
思フノデアリマス、之ヲ理窟カラ申シマスレバ、眞正面ニ勤メ
テ罷メタ者ト、出タリ這入タリシテ十五年ニナッテ罷メタ者
トノ間ニハ役所ニ對スル勤勞ノ功勞カラ言ヘバ大差アルト思
フ、併シ出タリ這入タリスル者ハ特別ノ事情ガアリ、必ズヤ
不利益ヲ本人ガ受ケテ居ルト思フ、即チ一切ノ俸給ニ付キ
マシテモ、勤続シテ居ル者ノヤウニ高クナデ居ラス、其間ニ
必ズ缺點ガアルガ故ニ、サウニ云フ事情ニナルノデアリマス
カラ、成程率ヲ異ニ致シマセヌデモ、本人同士ノ受ケル關係カ
ラ申シマスレバ、私ハ相當ニ其處ニ差別ガ實質ニ於テ付テ
居ルモノデヤナイカト考ヘテ居リマス

○阪本之助君 マダ盡キマセヌガ、餘リ私ガ獨占スルノ
モ恐縮デゴザイマスカラ、一時打切りマス

○江木翼君 私ハマダ實ハ各條ニ互リマシテ、仔細ニ講究
ヲ遂ゲテ居リマセヌノデアリマスルガ、大體一讀致シマシ
所デ非常ニ複雑ナル恩給關係ヲ茲ニ統一整理セラレテ、相

當ニ各方面ノ均衡ヲモ考慮セラレテ原案ヲ造ラレマシタ
云フコトニ付キマシテハ、之ニ從事セラレマシタ所ノ各員ニ
對シマシテ大イニ敬意ヲ表スル次第デゴザイマス、一二御尋
ネヲ致シタイ點モアリマスルガ、私ハ多分皆サンモ左様ナ御
考ヲ御持チテアラウト思ヒマスガ、一應茲ニ材料ヲ頂戴イタ
シマシテ、ソレヲ見マシタ上デ十分ニ質問應答ヲ重ネマシタ
方ガ即チ十分ノ考究ヲ經マシテ精練イタシマシタル質疑ヲ
爲シ、應答ヲ得ルト云フ方ガ時間ヲ節約スル上ニ於テモ必
要デアラウト思ヒマス故ニ、茲ニ私ハ材料ノ要求ヲ致シマシ
テ成ルベク早く、又出來得ベキダケノ材料ノ御提供ヲ願ヒタ
イト思フノデアリマス、ソレデ其材料ノ第一ハ或ハ難シイコト
カモ知レマセヌガ、行政整理並ニ軍縮ト云フモノガ實行サレ
マシタ後ニ於ケル各公務員ノ各種類ニ應ジテ其俸給額ガ
幾ラ幾ラニナデ居ルカ、例ヘバ軍縮ヲ經タル陸軍軍人ニ付
テハ俸給額ハ幾ラ、軍縮ヲ經タル海軍ノ軍人ニ付テハ其俸
給額ガ幾ラ、行政整理ヲ經タル文官ノ俸給額ハ幾ラ、或ハ
御分リニナラヌカト思ヒマスノハ各府縣町村等ノ負擔ヲ異
ニシテ居リマスル團體ノ公務員ノ俸給額ガ御分リニナラヌ
カモ知レマセヌガ、若シ御分リニナリマスナラバ其御分リニナ
リマス程度ニ於テ宜シイ、ソレカラ整理軍縮後ノモノガ御分
リニナラヌヤウデゴザイマスレバ、現在ノモノデモ宜シウゴザイ
マス、ソレカラ第一點デゴザイマス、ソレカラ第二點ハ唯今申
シマシタル前項ノ各區分ニ應ズル現在ノ恩給額、即チ陸軍
軍人ニ付テハ恩給額幾ラ、海軍軍人ニ付テハ幾ラ、文官ニ付
テハ幾ラ、小學校教員ニ付テハ幾ラ、巡查看守ニ付テハ幾ラ、
ト云フヤウナ各公務員ノ區分ニ應ズル現在ノ恩給額ガ幾ラ、
唯今申シマシタルハ現在ノ恩給法ニ依ル所ノ恩給額デアリ
マス、ソレカラ第三ニハ本改正案、即チ政府案ト衆議院ノ修
正案トヲ一絡ニ致シマシタル所ノ、貴族院ニ廻テ參リマス
タ所ノ此修正案ニ依リマス所ノ増額ノ區分、増額ノ各區分
ニ應ジテ、陸軍軍人ニ付テハ幾ラノ増額ニナルカ、海軍軍人
ニ付テハ幾ラノ増額ニナルカ、而シテ例ヘバ増加恩給ニ付テ
ハ幾ラノ増加ニナリ、扶助料ニ付テハ幾ラノ増加ニナルカ、ソ
レカラ普通恩給ニ付テハ幾ラノ増加ニナルカ、茲ニ御廻シニ
ナリマシタル書類ノ中ニ二千八百萬圓ト云フ總額ガ掲ゲテゴ
ザイマスガ、是ハ各公務員ノ種類別ガ書イテゴザイマセヌカ
ラ、之ヲ種類別ニ直シテ貰ヒタイノデアリマス、ソレガ第三、
ソレカラ第四ニ國庫剩餘金、是ハ大藏省デ御分リニナルコ
トト思ヒマスガ、國庫剩餘金ガ現在、例ヘバ追加豫算ノ財
源ニ幾ラ殘シテ置ク、サウシテ此恩給ノ方ニ向ケ得ベキ所ノ
剩餘金ガ幾ラアルカ、大正十一年ノ今月今日ニ於テ幾ラノ
國庫剩餘金ガアルカ、大正十二年ニ於テ幾ラアルベキ筈デ
アル、大正十三年、十四年、十五年ト云フ如ク、本案ヲ執行

ナサル豫定ニナッテ居ル年度マデノ剩餘金ガドウ云フヤウニ
出ルカト云フ御見込ミヲ承リタイノデアリマス、ソレカラ第五
ニ恩給者ノ數ヲ矢張り各公務員別ニ致シテ、公務員及ビ
其種類、例ヘバ軍人トシテ普通恩給ヲ受ケル者ガ幾ラ、扶
助料ヲ受ケル者ガ幾ラ、増加恩給ヲ受ケル者ガ幾ラト云フヤウ
ナ受恩給者ノ種別數、ソレカラ第六ニ國庫納金ノ既往數年
間ノ額ガ凡ソノ位ニナデ居ルカ、御分リニナリマスナラバ
決算額トソレカラ最近ノ一二年間ニ於ケル豫算額デ宜シウ
ゴザイマス、ソレカラ第七ニ最モ我々ガ參考ニシナケレバナラ
スト思ヒマスル點ハ本案ヲ施行サレマスル方法デゴザイマス、
本會議ニ於テ財政ノ都合ニ應ジテ定時之ヲ施行スル、斯ウ
云フヤウナ御言明ガアリマシタガ、此方法ヲ如何ニナサル御
積リデアリマスカ、現ニ大正十二年度ニ於テ既ニ豫算ニ計
上サレテ居リマス所ノ三百六十萬圓ト云フモノハ増加恩
給、ソレカラ遺族扶助料、ソレカラ四十三年前ノ文官ノ恩
給ノ増加、此三項ニ各、全部政府原案ノ額ヲ充テル目的ヲ
以テ九箇月分ヲ要求ニナデ居ルノデアリマスガ、其内四十
三年前ノ次官ノ恩給扶助料等モ變テ參リマシタラウシ、増
加恩給モ變テ參リマシタラウシ、遺族扶助料モ變テ參リマシ
タラウシ、從テ大正十二年度ニ於テ既ニ之ヲ御實行ナサラウ
トスルニ當リマシテハ千二百萬圓カラノ額ヲ要セラレル次第
ニナルト思フノデアリマス、此案ノ通りニシマシテモ多分サウ
ナルダロウト思フノデアリマス、二百五十萬圓ニ八百三十萬
圓ニ八十萬圓デアリマスカラ其位ニナリマスガ、約千二百萬
バカリヲ要スル譯ニナリマス、從テ豫算ニ積ラレテ居ラレル所
ノ三百六十萬圓ガ御實行ナサラウト云フノニハドウ云フ
風ニ御實行ナサルカト云フ點モ自カラ變テ來ララウト思
フノデアリマス、從テ是等ノコトハ非常ナ慎重ナル考慮ヲ要
セラレシコトト思ヒマスルノデ、大正十二年度ハ勿論ノコト
デアリス、十三年度以降ノコトニ付キマシテモ非常ナル熟慮
ヲ重ネラレテ初メテ分ルコトデアリマスカラ、即席ニ是等ノコ
トヲ御答ヘテ願フコトハ無理デアルト思ヒマス、十分御考
慮ヲ重ネラレマシテ是ガ實行案デアルト云フモノヲ政府ノ方
デ、御決定ニナリマシタモノノ御示シヲ得タイ、唯言葉デ伺フ
ヨリモ書付ミテ各員ガ承リマス方ガ宜カラウト思ヒマス故ニ
ソレヲ頂戴イタシタイト思ヒマス、以上七項ノ書類ヲ受ケマ
シテ、其上デ質問ニ這入リタイト私ハ思フ

○政府委員(馬場鐵一君) 唯今江木博士カラノ御質問
デアリマスルガ、其中ニ直ニ調製シ得ルモノモアリマスルガ、
手數ノ掛ルモノモ餘程アリマスルノデ、出來ルダケ急イデ御
希望ニ副フヤウニ努メマスルケレドモ、最後ノ御問ヒノ點デ
アリマスガ、此恩給法ノ施行ニ付キマシテハ、勅令ニ委任サ
レテ居ル、唯政府ハ大體六箇年ニ全部ヲ法定通りニ増額シ

タイト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、是ハ實際ニ於テドウ云フ風ニ施行スルカ、豫算トシマシテハ、大正十二年度ニハ追加豫算トシテ約四百萬圓ヲ要スル積リデアル、現在出テ居ルハ約三百六十萬圓、ソレハ四百萬圓、即チ十二年度ニ於テハ七百六十萬圓バカリニナタガレ、ソレドウ云フ風ニ割リ得ルカト云フコトハ、政府ノ決定の意見ヲ今出セト云フコトニ付テハ、ハ少シク難ズルノデアリマス、是ハ豫算ノ時ニハ決マルト思ヒマスガ、今即チ此場合ニ於テ決定ト云フモノヲ申上ゲ兼ネルト思フ、勿論是ハ書面デ差出スノデアリマス、ソレカラ尙ホ御注文ノ中ニ既ニ御配付ヲ致シタモノモアルカト思フ、如何デアリマスカ、アリマセヌデスカ

○江木翼君 ナイヤウニ思ヒマス

○政府委員(馬場鎮一君) 尙ホ御注文ノ、御書キニナタモノヲ政府委員ノ方ヘ御出シヲ願ヒマス

○江木翼君 一番重要ノ問題ハ此法案ノ實施方法ノ事柄デゴザイマス、總豫算ニ既ニ三百六十萬餘圓御出シナリ、更ニ追加豫算トシテ、大正十二年度ノ追加豫算トシテ、四百萬圓、所謂九箇月分ニ對スル各兩方合セマシテ、七百六十萬圓ト云フモノハ、九箇月分ニナルノデアラウト私ハ想像イタシマスノデアリマスガ、其點ハ略、諒察ガ出來マスルガ、十三年度以降ノコトニ付キマシテハ、或ハ此通り實施スルノデアルト、是ハ一步モ變ヘルコトハ出來ヌト云フヤウナコトデアリマスルト、或ハ御示ニナルト云フコトガ窮屈ニナタ困ルカモ知レマセヌ、先ヅ略之ニ依ル積リデアルカ、或ハ委員會等ノ注文ニ依テ、又是ハ斯ウ云フヤウニ變ヘルカモ知レヌト融通ノ間キマスルヤウニ、或ハ何ダカ政府ハ會議ハ開イテソレノミデ出セト云フヤウナ工合ニ御取リナリマス、窮屈ニナリマスノデ、マア略、斯ウ云フヤウナ案デ居ルノダト云フ、一應ノ御考ヘノアル所ヲ、御示シヲ願フデ置ク、斯ウ云フコト宜カラウト思ヒマス、而シテ私ハ成ルベクナラバ、ソレ等ノ材料ガ揃ヒマシタ上デ、審議ヲ續行サレンコトヲ、希望スル次第デアリマス

○澤柳政太郎君 唯今江木君ノ御要求ニナリマシタ材料ハ本年ノ審查ノ上ニ大變ノ參考ニナルコトデ、ソレヲ拜見ノ上デ色々御質問モシタイコトモアラウト思ヒマスルガ、マダ時間モアルヤウデアリマスカラ、簡單ニチヨツト二三ノ事ヲ伺フデ置キタイト思ヒマス、政府ガ恩給ノ法規ヲ統一セラレ、増スベキモノハ増サレタ、而シテ衆議院ニ提出セラレタノデアリマスルガ、ソレハ政府トシテハ申上迄モナク、其提案ニ依ッテ、彼此權衡ヲ得テ居ルト云フ御見込デアラウト思フ、マダアリマス、ソレニ對シテ衆議院ニ可ナリ大ナル修正ヲ加ヘマシテ、ソレニ政府ハ同意セラレタノデアリマスルガ、政府ハ此修正ニ依ッテ、從來最初原案トシテ提案ヲシタ上ニ付イ

テ、權衡ヲ得テ居ルト考ヘテ居ッテ、其權衡ハ少シモ衆議院ノ修正ニ依ッテ、破ブレテ居ラヌト云フヤウナ御見込デアリマセウカ、此教育職員等ノ恩給ニ付テハ、此衆議院ノ修正ニ依ッテ、多少其邊ノ懸念ハアリハセヌカト思フノデアリマスルガ、衆議院ノ修正ガ、當初政府ガ考ヘテ居ラレタソレニ對シテ、唯恩給ノ最少ノ額ヲ四分ノ一ヲ三分ノ一ニ増シタト云フダケニ止マラズシテ、彼此權衡ヲ破ルヤウナモノハアリハセヌカト思フノデアリマスルガ、其點ヲ一ツ伺ヒタイ、ソレカラ待遇職員ニ對シテ、新ニ恩給ノ制度ヲ設ケラレタモノガアルト云フコトヲ御話ニナリ、御説明ノ中ニモアリマスルガ、待遇職員ノ中デ、又恩給制度ヲソレニ對シテ設ケルニ及バナイ、即チ漏レテ居ッテ、現在デハ恩給ヲ給與セヌト云フヤウナモノハナイノデアリマセウカ、即チ待遇職員ハ今度ノ法案ニ依ッテ、總テ是ニ恩給ヲ給セラレルト云フコトニナタノデアリマセウカ、或ハ或ルモノハ多少マダソレニ及バナイト云フ御議論デアッタノデアリマスルガ、ソレヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、ソレカラ自己ノ便宜ニ依ッテ退職シタルモノハ、例ヘバ十五年以上ノ人モ、今マデハ恩給ヲ與ヘラレナカッタト云フ規定デアルノデアリマスガ、ソレヲ修正セラレタハ甚ダ當ヲ得タコトデアラウト思フノデアリマスルガ、サウ致シマスルト、是迄中ニハ正直ニ此自己ノ便宜トカ云フコトデ、退職シタルモノ、即チ偽ラ誠ニ簡單ニ得ラレル醫師ノ診斷書ヲ副ヘテ、恩給ヲ要求シナカッタト云フヤウナモノガ、少ナクハナカラウカト思フノデアリマス、ソレ等ニ對シテハ、是ハ如何トモスベカラザルモノデアルト云フ御見込デアリマセウカ、何等カ斯ウ云フコトニナリマスレバ、其正當ナル人ニ對シテハ、何トカ、一ツ救済ノ道ヲ講ズルコトガ、適當ノコトデアリナデアラウカト思ハレルノデ其點ニ付テ、ソレカラモウ一ツハ、近來貴衆兩院ニモ軍人ノ恩給ノ増加ノ請願ト云フモノハ、非常ニ澤山參ッテ居リマスルシ、又新聞紙上等ニ依リマスルモノ、到底現行ノ恩給會シ中ニハ中將少將ト云フヤウナ人々モ、到底現行ノ恩給デハ生活スルコトガ出來ナイト云フ訴ヘヲシテ居ラレルヤウデアリマスルガ、是等ノ人々ノ要求ハ色々ノモノハ多々益辯ズルト云フ次第デアリマセウカ、此修正案ガ決定イタシマスレバソレニ依ッテソレ等ノ希望ト云フカ要求ト云フモノガ、大體容ラレルト云フノデアリマスルガ、又修正案ト是等ノ人々ノ要求シテ居ル所ハ、大分ソコニ可ナリノ開キガアルモノデアリマセウカ、其邊ニ付テ當局ニ承テ置キタイト思フノデアリマス

○政府委員(入江貫一君) 御答ヘイタシマスガ、衆議院ノ修正ニ依リマシテ權衡ヲ失スルノ憂ヘナキヤト云フ御質問デゴザイマスガ、其例トシテ教育職員ノ退職ニ依リマス増額ノ率ナドノコトモ御舉ゲニナリマシタ、政府ニ於キマシテハ

衆議院ノ修正ニ依リマシテ、權衡ヲ失スルコトハナイト認メタノデゴザイマス、ソレハ衆議院ノ修正ハ主トシテ政府ノ提案以外ノ點ニ於テ恩給ヲ増額スルコトニナリマシテ、其増額ヲシタイト云フコトハ政府モ亦希望ヲシテ居ッテ點デアリマス、只例ニ御置キニナリマシタ退職ニ依ッテ殊ニ勤績者ニ増加スル率ガ、政府案ヨリハ低ク訂正サレマシタノデアリマス、是ハ學校教員ノミナラズ巡查看守ニ於テモ同様デアリマス、是ハ率ノミヲ取ッテ見マスルト低クナタヤウデアリマスガ、根本タル俸給ガ小學教員巡查看守ニ於テハ數年前ヨリ昇リマシタノハ一點、他ノ一點ハ衆議院ノ修正ニ依リマシテ恩給額ガ上リマシタカラ、在來恩給額ガ少ナイ所デ一定ノ増加ヲ來シマシタモノヲ、此修正ニ依リマシテ其基本タル恩給額ガ上リマシタカラ、増加ノ率ガ低クシテモ其増額スル所ヲ其恩給ノ或ル一定ノ率ニ到達イタサセヤウトシマシタノデアリマスカラ、増加ノ率ガ少ナクナルト云フコトハ自然ノコトカト思ヒマス、例ヲ申上ゲマスレバ小學教員ガ勤績シテ四十年デ退職シタトシマスレバ、在來ハ略、俸給ノ六十分ノ一ツ増加イタシマシタ、サウシテ其四十年度ノ額ガ俸給ノ六割六分六厘ニナタノデアリマス、今回ノ修正ニ依リマスルト二元ノ恩給ノ基礎額三分ノ一ト云フモノガ殖エマシタノデアリマスカラ、其増加率ヲ少ナク致シマシテ、勤績者ニハ俸給ノ六割六分六厘ニ到達スル如ク修正サレマシタカラ、率ハ少ナクナリマシタケレドモ、其割合ハ決シテ惡クハナラナイ

次第デアリマス、先ヅ是等ノ點ニ於キマシテモ權衡ヲ破ル虞ハナイカト思ヒマス、第二ノ待遇職員ハ、從來特ニ法律ノ規定ガザイマシタ所ノ小學校ノ教員トカ、或ハ地方ノ巡查看守ノ如キ者ニ限ッテ、特ニ規定サレタモノノミノ恩給ガゴザイマシタガ、此改正案ニ於テ待遇職員トシテ恩給ヲ給スルコトニナリマシタケレドモ、其範圍ハ今日ノ現在ノ待遇職員全部ニ互ラヌ積リデゴザイマス、何トナレバ今日ノ待遇職員ト申シマスモノ、中デ、實際國家ノ事務ニ從事シテ、其執ル所ノ事務ハ官吏ト同様ノモノモゴザイマスガ、又待遇職員ニ於キマシテハ、只名譽ノ爲ニ待遇ヲ與ヘタリ、或ハ其執ル所ノ職務ガ國家ノ公務デハナイ、若クハ公務デアッタ所デ極メテ僅少ノ部分シカ執ラナイト云フモノハ多々ゴザイマス、依ッテ本案ニ於キマシテハ、勅令ニ讓ッテゴザイマスガ、勅令トシテ國家事務トシテ自然ソレニ從事スル所ノ待遇職員ダケヲ掲ゲテ、之ヲ恩給ノ法規ノ中ニ入レタイ考デアリマス、第三ノ點便宜ニ依リマシテ退職官イタシマシタモノハ從來ナイコトハゴザイマセヌ其ハ割合ニ少ナイトハ存ジマスルケレドモ、國家ニ對シマシテ嘘ヲ吐イテ神經衰弱ナリト言ッテ退職官スルコトヲ潔シトセズ、誠ニ高潔ノ心事ヲ以テ、明カニ自己ノ便宜トシテ退職シマシタモノハゴザイマス、サウ云フ者ニ對シテ將

來ハ自己便宜退官者ニハ恩給ヲ給シナイト云フコトハ止メマ
スケレドモ、從來高尚ナル心事デ自己ノ便宜デ罷メマシタ
者ニ、今新ニ恩給ヲ給スルト云フコトモ甚ダ困難ナル事情
ガアリマスカラ、改正案ニ就テハ將來ニ於テ此制度ニ依ッテ
罷メタト云フモノニ給スルコトニ止メタイ考デアリマス、第四
點ニ當今軍人恩給ニ就テ種々ノ増額等ヲ要求シテ居リマ
ス、此要求ハ人ニ依リ時ニ依リ非常ノ差異ガゴザイマス、現
ニ一昨年アタリニ於キマシテハ此要求ハ極メテ穩當デアル、
寧ろ過少デアッタト思ハレルヤウデアリマシタガ、ソレハ昨年
トナリ今年トナテ、段々ト要求ガ増大サレタト云フコトハ事
實デゴザイマス、貴衆兩院等ニ請願等ノ形式ヲ以テ要求サ
レマスモノ、内容ニ付キマシテモ、其人ニ依リマシテ非常ノ
相違ガアルノデアリマス、極メテ妥當ナルモノハ此際物價騰
貴等ニ依ッテ困難ヲスルガ爲ニ、相當ノ恩給ヲ増額シテ貴ヒ
タイト云フ要求モ澤山ゴザイマス、又中ニハ今日ノ俸給ヲ五
割増加シテ其五割増加シタモノヲ基礎トシテ三分ノ二マデ
ニ増加シテ呉レ、或ハ四分ノ二マデニ増加シテ貴ヒタイト云
フ請求ガゴザイマス、或ハ遺族扶助手ノ遺兒手當ヲ子供ノ
數ニ於テ相當欲シ、ソレカラ乙號表ノ最低限度ニ於ケル
モノヲ年額三百六十圓トシテ、而カモソレニ相當増加セラ
レタル恩給ト平均シテ貴ヒタイト云フ趣旨ノ要求モゴザイ
マス、先ヅソレ等ガ最も高イト申シマス多額ノ要求ヲ爲スモ
ノニ比シマスレバ、本回ノ修正ハ必ズシモ満足デアルトハ
申サレ惡イカト思ヒマスガ、併ナガラ政府當局ノ見ル所ヲ以
テスレバ、増加恩給ニ於テ若クハ普通恩給ニ於テ、今日ノ
財政狀態等ヲ考ヘマシテ、先ヅ此點ガ適當デアラウ、内容ニ
於テモ先ヅ此點ニ於テ現下ノ狀況ニ於テハ満足シナケレバ
ナリマス、ト思フ程度デアラウト考ヘマス、依テ要求ニ對
シマシテ悉ク満足ノ意ヲ表スルト云フコトニハ、或部分ニ於
テハ甚ダ遠イ、併ナガラ或者ニ於テ恐ラク満足ヲ與ヘ得ル次
第ト存ズル次第デアリマス

○澤柳政太郎君　チヨット此本案ニ列舉シテ居ル待遇職
員、是ハ明カデアリマスガ、サウデナイ恩給ノ恩典ニ及バナ
イ待遇職員ニ漏レナクト云フコトデナクテモ、重ナルモノヲ一
ツ表ニシテ戴キタイト思ヒマス、序デニ……

○政府委員(馬場鑒一君)　承知イタシマシタ

○委員長(公爵近衛文麿君)　今日ハ是ニテ散會イタシマ
ス

午後三時五十二分散會

出席者左ノ如シ

委員長　公爵近衛　文麿君
副委員長　大島　健一君

委員

伯爵副島	道正君	陸軍大臣	山梨	半造君	國務大臣	政府委員	內閣恩給局長	入江	貫一君
子爵樋口	誠康君	陸軍次官	馬場	鑒一君	陸軍一等主計正	飯塚	法制局長官	白川	義則君
子爵青木	信光君		伊丹	彌太郎君					唯助君
男爵坂本	俊篤君		江木	翼君					
男爵船越	光之丞君		南	弘君					
男爵神野	勝之助君		福永	吉之助君					
男爵澤柳	政太郎君		阪本	鈺之助君					
	誠之助君		伊丹	彌太郎君					

大正十二年三月十日印刷

大正十二年三月十一日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局